令和元年　第十五期くまもと俳句ポスト

第十五期開函

　日本伝統俳句協会副会長　岩岡　中正　選

**特選**

避難所のむすびの記憶　　　　　　　　　熊本県熊本市　　　　野﨑一雄

【講評】

　もう三年もたったあの熊本大地震。今なお仮設住宅住まいの人たちもいるが、今でも茂った夏木立の下闇に入ると、あの震災の苦労がおむすびの白の一点からよみがえるという。たしかな記憶を基にした物語性と詩情がある。

**わが輩通り賞**

カルデラは逆さ五岳のかな　　　　　　　　熊本県熊本市　　　 佐藤誠吾

**入選**

水俣湾はわが浄土　　　　　　　　　　熊本県熊本市　　　 鶴田信吾

くまもんの帽子で乗車麦の秋　　　　　　　　　長崎県諫早市　　　 麻生勝行

太陽のなり冬の　　　　　　　　　　　東京都練馬区　　　 三嶋浩樹

**佳作**

山は生きてゐるそこにもここにも薇　　　 熊本県熊本市　　　 倉岡皇至　　 新緑に囲まれて今田原坂 　 福岡県北九州市 小宮直子　　　　たゝみ八雲の旧居訪ふ　 熊本県熊本市　　　 野口美智子

神と医師信じよと初みくじかな　　　　　　　 熊本県合志市　 坂田美代子

満開の桜のごとく散る命　　　　　　　　　　　熊本県菊池市　　　 太田琴乃

なく峠の茶屋は今日も留守　　　　　　　　熊本県熊本市　　　 林田秀久

田原坂はるかにみどりの山野あり　　　　　　　高知県南国市　　　 山﨑信秀

桜はらはら義を貫きし古戦場　　　　　　　　　熊本県熊本市　　　 熊谷尚子

阿蘇に咲く野の花散らし紙を漉く　　　　　　　熊本県熊本市　　　 山﨑綾子

春雨や弾痕濡るる田原坂　　　　　　　　　　　埼玉県川口市　　　 井上裕太

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 投句総数　　二百十一句

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 市外　　　　百二十六句

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 市内　　　　　八十五句

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 開函日　令和元年六月三十日